

自己評価結果公表シート（令和5年度）

学校法人 明和学園 明和幼稚園

1. 本園の教育目標

明るく、正しく、和やかな人間形成を目指し、自立の精神を以て何事にも丁寧に経験していくことを方針としている。楽しいこと、悲しいこと、しんどい事。それらの一つひとつを「ていねいに、ていねいに」経験を積み重ね、一人ひとりの個性を大切に、いきいきとした子どもを育む。

満3歳児…少人数のクラスで、1人ひとりの子どもの発見や気づきを共感し、豊かな経験を積み重ねる。

年少組…4人の担任で、子ども達が安心して集団生活をいつもニコニコ笑顔で過ごせるように、子ども達それぞれの個性や感性を大切に育む。

年中組…自分と相手（友達）の存在を大切に、皆と力を合わせることで、満足感や充実感を得ていく。

年長組…自分で考え、活動を見出す年長組。様々な経験を通して自立を促す。周りへの思いやりや理解を育む。

2. 本年度、重点的に取り組む目標。

- ・子どもの心身の健やかな成長の為に、前年度の反省を生かしながら指導計画を見直し改善していく。
- ・特色教育である自然に触れることや絵本など、さらに深められるように努める。
- ・令和5年度より英語、体育の正課レッスン時間を減らし、クラスの子ども達と向き合う、ゆったりとした時間を作る。まだ教員自身も経験した事のない事や苦手意識のある取り組みに挑戦する。教員自身が興味のあること、好きなことは子ども達と共に共感し、明和の特色教育を更に深める。
- ・従来のやり方に囚われることなく、柔軟な発想を持ち常にチャレンジする。
- ・子どもの主体的な姿を大切に、1人ひとりに寄り添う保育を目指す。何を見て、何を感じ、何を考えているのか思いを馳せられるよう努めていく。自立に向けた保育環境を作るために、声掛けの仕方や教員の配置を話し合い、心の成長に目を向ける。
- ・コロナ禍で自粛していたピアノ指導を再開。歌唱や合奏など、子ども達が笑顔で取り組める活動を更に増やす。リトミックの有資格者が増えたことで、リトミック活動の充実を図りたい。
- ・絵本に触れる機会をさらに増やし、楽しみながら、活字に興味を持ってもらえるよう保育計画を考える。
- ・体幹を鍛えられるよう、楽しみながら身体を動かす保育メニューを取り入れる。
- ・延長保育でも子ども達に向き合えるような保育を考え、取り入れていく。
- ・職員の就業時間の改善。働き方の見直しを行う。残業届を記入し可視化することで残業を減らすよう

努める。

- ・れんらくアプリ、Dropbox、Google ドキュメントやスプレッドシートにより、紙での業務を減らし、効率化を図る。データ管理に移行するように努める。
- ・未就園児クラス教員、フリー教員と在園児クラスへの協力要請、連携の取り方の改善。
- ・担任一人で抱え込むことなく、周りへの相談・協力を仰ぐ環境を作る。
- ・自身の仕事だけではなく、俯瞰的に物事を観察し、効率的に他学年の仕事・全体の仕事が円滑に進められるように過ごす。学年や担当の違いによる業務負担の差を減らす。
- ・教育方針や特色教育を《れんらくアプリ》《おうちえん》《ホームページ》などで、わかりやすく伝えていく。父母の会役員の方を通して保護者のニーズや満足度を把握し、保育や行事の内容を考える際、検討する。
- ・おうちえんでの配信に、絵本・給食・親子学級などの配信を増やし、園の様子をご覧いただく機会を作る。
- ・園児1人ひとりの行動に目を配り、日々の保育の様子を保護者に丁寧に伝えていけるよう、保護者とのコミュニケーションを深める。
- ・定期的な避難訓練を今後も継続実施し、更なる防災意識の向上を図る。
- ・バスの安全確保の為の方策を講じる。
- ・キンダーカウンセラーの相談を継続し、園児の様子を見ていただく。同時に園児との関わり方について、教員に助言をいただきより良い保育を目指す。
- ・キンダーカウンセラーに保護者の悩みを気軽に相談できる環境を作る。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
指導計画	<ul style="list-style-type: none">・過去の指導案の見直しや話し合いによって、子どもの発達や季節に応じた年間計画、月案、週案を作成・確認し、保育に取り組んでいる。・満3歳児→今年度のテーマ『感触あそび』の活動をたくさん行い、子ども達の様々な感覚に刺激を与えることが出来た。 歌や劇の導入にペープサート等を取り入れ楽しく覚えられるよう努めた。自由あそびの時間には子ども達がペープサートを持ちながら楽しそうに歌っている姿が見られた。 普段の子どもの様子を見ながら、個別の援助方法を考え実践できた。 知育あそびの玩具作りには力を入れた。・年少組→今年度のテーマ『草花の取り組み』で、年間を通してたくさん活動を行い、新しい体験では桑の実での染物に挑戦した。草花に深く関わり、子ども達も興味を持って活動できた。 運動会や学年の活動を例年通りではなく、形を変えて新しい取り組みが出来た。 研修にもたくさん参加し、今までとは違う刺激を受けた。勉強したことはすぐに実践し、3歳児でもここまで出来るのかという発見があった。 部屋の環境をその時々で変えてコーナー保育を行いながら、1年間を過ごした。 活動を単発で区切らずに次に繋げて、広げ深めていく事に重点を置き、取り組ん

だ。

- ・年中組→今年度のテーマ『食育～三大栄養素～』年少組から引き続き、食育をテーマに取り組んだ。それぞれの食べ物の持つ力を知り、バランスよく食べる大切さを学ぶ為、三大栄養素について深めた。また植物や動物の命をいただくこと、多くの人に関わっていることを学び、おかげさまの気持ち、感謝の気持ちを大切に、テーマに取り組んだ。子ども達は苦手なものにも大切な栄養が入っていることを知り、自ら食べる姿が見られ、お友達に『食べたらおいしかったよ。』と教えてあげる様子もあり、食事に対して前向きに捉える成長した姿を見ることができた。

コーナー保育を取り入れたことにより、遊びが散らばることなく、子ども達が自ら選択し遊び込む様子が見られた。

サーキット遊びや雑巾がけなど、楽しみながら体幹を鍛えられるような保育をした。

次年度は年長組になる意識がもてるよう、目標を立て過ごした。

- ・年長組→今年度のテーマ『環境』。主に、ごみの分別や身の回りのものを大切にすることに重点を置いて取り組んだ結果、楽しく習慣化しながら学ぶことが出来た。廃材遊びを取り入れ、玩具を作ることや再利用する事が、ごみを減らすきっかけになることを知った。子ども達は自由な発想で想像力を膨らませ、生き生きとした表情で制作する様子が見られた。

尼崎北小学校との連携を図り、子ども達の小学校への興味、意識を高める為、3度の交流会を行う。少しでもスムーズに入学出来るよう、1年間を通して取り組んだ。小学校に入った際に何が必要なのかを考え、話し合うこと、椅子に座り話を聞くこと、人前で発表の仕方など、小学校での見学を参考に保育にも取り入れた。

- ・支援の必要な子どもに対して、出来た、完成した、完食できた、達成できた喜びを子ども自身が感じられるように努めた。生活発表会後に本人が、「頑張ったー！！」と言った事がとても嬉しく、成長を感じた。

担任の先生とアプローチの仕方や手立て、今後の目標を話し合い、計画的に保育を行った。

キンダーカウンセラーの相談を継続的に行った。体の使い方、体幹の重要性を知ることが出来、学びの多い1年となった。

- ・未就園児クラス→テーマとして取り組んだパンの絵本にリトミック要素を入れた曲を作った。保護者からも「家でも振付きで歌っている」との嬉しいお声をいただいた。

保育室だけではなく、ホールでのサーキットや新聞、ボールプールなど、体を動かして遊ぶ保育を取り入れた。

子どもの個性に合わせた保育を考え、新しいことに取り組んだ。

保護者との関わりを持つこと、連携を意識して取り組んだ。

途中から入ってくる子どもへの配慮や一人ひとりへの丁寧な関わりを心掛けた。

- ・リトミックスタッフを立ち上げ、年間を通して、各学年の音感教育状態を各先生方と把握した。

	<p>休止していたピアノ指導を再開。楽しいリズムレッスンになるよう努めた。</p>
職員の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の時間外労働は改善の様子が見られる。残業届を1年間の表に可視化することで、自身の時間管理を適切に行う努力を窺えることが出来た。 ・昨年度に引き続き、紙での業務を減らし、効率化を図る。データ管理への移行途中であることで、良い方向に進んでいる部分とそうでない部分の差を感じる。順序立てて計画的に行う必要がある。 ・子どもの行動や言動に対して、何をどのように対応したのか。を担当や担当者にすみやかに伝えることを心掛けた。 ・教職員の『やりたい』気持ちを聞き、その実現に向けて、他の教職員に相談するなど、様々な人の意見を聞く、また伝えることを意識し取り組んだ。 ・学年や担当の違いによる業務負担を減らすことは難しく、思った成果を感じられない。余裕を持ち物事を俯瞰的に観察することが必要。
家庭との連携強化とニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> ・《おうちえん》で、保育の様子を写真や動画で配信を続けた。各クラスの取り組みや園での行事をご覧いただくことで、家庭と園との繋がりに努めた。 「こんな素敵な表情で過ごしているのですね」と保護者から声をかけていただき嬉しく思う。 ・朝、帰り際には、保護者に積極的に声をかけ、安心して子どもを預けられるよう努めた。個人懇談会では、保護者から園児の家庭での様子を聞き、園でのエピソードを通じて、保育方針の説明や協力をお願いした。 ・父母の会役員さんとの話し合いで情報交換をしながら、保護者のニーズを聞き、改善するよう努めた。 ・昨今、多様化する女性の働き方により、父母の会役員の負担が大きいことが課題であった。今後も園と保護者が協力し合い子どもの成長を育てていくことを第一とした持続可能な制度に移行することで父母の会臨時総会を開き、可決した。令和6年度より『為合わせ制度』として、保護者に行事等のお手伝いをいただきながら、園とのコミュニケーションを取っていききたい。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画、保健計画を定め、行っている。 ・登降園時には、必ず職員が通用門と駐輪場に立ち、園児、保護者の安全に気を配っている。 ・防犯カメラや ALSOK との連携、県警ホットラインで園児の安全を確保しているほか、日頃から園内の安全点検をして、園児が怪我をしないように（危険の排除、怪我をした際の記録・原因究明・再発防止策）を講じている。 ・バス、置き去り防止装置の設置義務化に伴い、《置き去りキャッチ》を採用した。併用式で、降車時に居残りを巡回点検し、更にセンサーで見落としをチェックしている。 ・《たすけてボタン》は引き続き使用する。中に取り残された際に、園内の職員に園児自ら知らせることが出来る。 ・園児・保護者・教員の心のケアのため、キンダーカウンセラーに定期的に来ていただき、助言をいただいている。夏期休業中には教員向けに研修を行った。 ・アレルギー委員会を定期的に行い、安全で確実な給食提供をした。

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神、ビジョンを実現させるために、今必要なものは何か。何を大切にす るのかを改めて考える。 ・指導計画を見直し、さらに良くなるよう作成する。 ・運動あそびや知育あそびを研究し、取り組む。 ・リトミックを積極的に行い、様々な音に触れて過ごす。 ・リトミックスタッフ会議を活用し、普段の保育にも取り入れられるリトミックを 担任の先生方と共有する。 ・サーキットなどの運動あそび、リズム遊びやダンス等体幹を鍛えられるような保 育に取り組む。 ・草花を育てるだけではなく、制作活動や草花あそび等に深める。 ・身近にある物（野菜や果物などの雑貨）や自然物（園外保育で拾ったもの）など 日常に近いものを使ったあそびを楽しむ。 ・ごっこ遊びやなりきり遊びを子ども達が主体となり取り組めるよう仕組みを作 る。 ・小学校との関わり、小学校に向けて取り組みを行い、意欲を高める。 ・前年度に引き続き、ワクワクするような体験を子どもと一緒に取り組む。 ・例年通りではなく、子ども達の発達や様子に合わせ対応する。 ・子ども達がのびのびと自分を出せる場所、安心して過ごす環境を作る。気持ちに 寄り添いながら信頼関係を築いていきたい。 ・子どもと同じ目線で物事を見ていきたいと思う。 ・子ども達が主体となり、自ら考え、取り組み、発展するような環境を整える。 ・支援の必要な子ども達への関わり方、フォロー体制を考える。 ・個人を見ながら、全体に入れるよう咄嗟の動きが課題。研修に参加することや事 例などを勉強し、自身に幅を持たせ対応していく。
職員の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEやGoogleドキュメントで共有することで、職員全員の共通理解を引き 続き効率的に行う。 ・ドキュメントでの報告だけではわかりかねる事もある。また紙で回している回覧 は出勤日数の違いで情報のスピードに差が出る。常勤、非常勤の出勤日数の違い による理解の差を埋める方法を考える。 ・常勤教諭の残業は減りつつあるが、有休の消化は出来ていない。預かり保育の拡 充に伴い出勤人数が以前より必要。 ・非常勤教諭の有休が取れていない。就業規則を改め、常勤非常勤の差を失くすよ う努める。 ・学年や担当の違いによる業務負担の差が大きい。自身の仕事だけではなく、俯瞰 的に物事を観察し、効率的に園全体の仕事が円滑に進められるように配慮し過ご したい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・広い視野を持ち、担任一人で抱え込むことなく、周りへの相談・協力を仰ぐ環境を作る。教員自身の得意なこと、苦手なことを皆がお互い補い合いながら、助け合うことが、業務改善の近道と感じる。その土台を作りたい。
家庭との連携強化とニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> ・園児1人ひとりの行動に目を配り、日々の保育の様子を保護者に丁寧に伝えていけるよう、保護者とのコミュニケーションを深めていきたい。 ・教育方針や特色教育を《れんらくアプリ》《おうちえん》《ホームページ》などで、わかりやすく伝えていく。新たに、《Instagram》も活用し、広く幼稚園を知ってもらえるよう努める。 ・令和6年度は為合わせ制度スタートの1年となる。連絡系の保護者との対話で、保護者のニーズや満足度を把握し、保育や行事の内容を考える際の検討材料にしていきたい。 ・親子学級は、これまで運営を保護者に全て任せていたが、昨今の保護者の皆さまの就業状況を鑑み、園で運営計画を行い、参加してもらう形に変える。保護者の負担を減らしながら、活動に参加し、幼稚園生活を楽しんでもらえるよう努める。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な避難訓練を今後も継続実施し、更なる防災意識の向上を図るとともに研修を行い、防災用品の点検、補充など、安全対策を図っていく。 ・子ども達の主体性を育む、自立に向けた保育環境を作るために、声掛けの仕方や教員の配置を話し合い、心の成長に目を向ける。 ・キンダーカウンセラーの相談を継続し、園児の様子を見ていただく。同時に園児との関わり方について、教員に助言をいただきより良い保育を目指す。 ・キンダーカウンセラーに保護者の悩みを気軽に相談できる環境を作る。 ・アレルギー委員会を今後も継続し、安全に給食提供をする。

5. 財務状況

・公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。